

---

# 毒男と少女と散歩道

最新型冷蔵庫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

毒男と少女と散歩道

### 【Zコード】

Z6477H

### 【作者名】

最新型冷蔵庫

### 【あらすじ】

人生に自分に、ほとほと愛想をつかした毒男は、記憶が覚束ないほどの昔、まだ暖かさを感じていた頃を夢みて世界から離脱する。離脱した先に待ち受けっていたものは…

校舎の影がグラウンドの中央までぼんやりとのびている。

日の光は未だ確かに世界を照らしてはいるが、教室からじまされる螢光灯の明かりが少しまぶしく感じられる。

ボールを蹴る爽快な音、子供の遠慮のない澄んだ大声、下校を促すアナウンス。

時折、遊具の軋む音がキイーと泣いては止まりを繰り返している。

この止まったように優雅な時間を一頻り眺めていると、自分だけが世界からはみ出でてしまったかのように思える。

だからだろうか、ふと何氣無しに手首に手をやり、脈を確認していった。少し速いがしつかりとリズムを刻んでいる。

大丈夫、生きている。それにしても久しぶりの母校は、感情のこじい俺であっても充分に心動かすものだったようだ。

「はじめよう」

誰にもみつかないよう気にをつけながら、手提げ鞄を片手に携えて、校門から校舎裏を田舎して歩きはじめる。

いざ思い出の場所へ。子供達は遊びに夢中のじ様子。都合がいい。だが、念には念をだ。

こそこそと物陰をつたつて移動していく。見つかればこのじ時世、言い訳のしようもない。

忍び足だったにも関わらず、思いのほか早く到着した。大人と子供の歩幅の違いだろうか。

校舎裏には昔と同じ位置にグミの木が、ちょうど真ん中に空間を作るように両端に生い茂っている。

なにひとつ変わっていない」とて安堵するとともに、グミの臭いが意識を過去へと後退させる。

季節の変わり日、空気の匂いの違つこづいたときのよつな、うつろな感覚が全身を巡りだす。

身震いしながらグミの木の間を潜り抜けると、ぽつかりと何もない、薄暗く湿度の高い長方形の空間が広がる。

学校という特殊な環境にありながら、より一層、異質で隔絶された世界。

内外を分かつための境界としてそびえる高い壁と、校舎の壁との両側から挟まれた、日の当たらない不気味な世界は、つまらない怪談にさえ肝を冷やす児童に堪えられるものではない。

だが、当時の俺にとつて、じいじほど優しい場所はなかつた。機能不全の家庭とそれに因る対人能力の未熟さから、じいじに居ても孤立していたせいだろう。

家庭と学び舎の両方から弾かれたものにとつては唯一の逃げ場所だった。

壁に挟まれた暗闇と、自分を取り巻いていた状況は、奇しくも似通つているのだが、攻撃してくるもののいないといつ一點だけで、薄気味悪さを覚えずにいられた。

鞄から携帯折り畳みイスを取り出し  
組み立て  
おそるおそる腰を下ろす。

やや不安定な足場だが、目的にはそれが丁度いい。アウトドア専門店で時間を掛けて選んだこだわりのイスだ。

「自分のつまらない一生でも思い返してみよつか」誰かに話しかけるように独り言をいつ。さびしいから。

「えーと、公立の小学校を出て公立の中学校をでて公立の高校を出て三流私大を卒業して就職氷河期でフリーターにならざるを得なくて、気がついたら日雇い派遣労働者か、ふう」

ん、いや、ちょっと待て、いくらなんでも端折りすぎだろ。

「てか、端折つてるのに底辺人生だつてハッキリわかるよ、なにこれふざけてんの」

一人ツツコミがむなしく響く。

しかしながら、意外に思い返すことなんて出でないもんだあ、思い出したくないことだらけだからかな、ははっ。  
今となつちや、なにもかもどうでもよくて忘れちやつてるよ。そんなもんか。そんなもんだな。

記憶に残つていたのは、ここだけで、他には何もない、なにも・・・

再度、鞄を開ける。丈夫な麻縄とミネラルウォーター、それに精神科で処方された睡眠薬のストックを取り出す。

錠剤は一度に飲み込めるように小袋にまとめておいた。数回に分けてミネラルウォーターで流し込む。準備は万端。

後はどこかの木の幹にでも縄をかけて、モヤイ結びで作った輪に首を通し、イスの上に立つていればいい。

睡眠薬の作用は大体にして20分後から利き始め、1時間後には血中濃度が最大になる。否が応でも意識が飛ぶ。

そこまでくれば、小脳の支配を失った脚が、自動的にイスを蹴飛ばすだろう。寝ている間にキュツだ。

運命だらうか、いい具合の幹をすぐに発見した。神様、僕を初めて応援してくれるんですね。

短い人生だつたけど、ありがとう、ありはうつ、ひんああひはひょう！

ろれひゅまわりやなふなつへひは

あばばばばばばばばばば

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6477h/>

---

毒男と少女と散歩道

2011年1月13日03時45分発行